

アムール州に見る中口経済関係：強まる中国依存に活路はあるか？

富山大学極東地域研究センター教授 堀江典生
ロシア極東国立農業大学人文学部准教授 ヴァレリー・レイマー

1. はじめに

ロシア極東地域は、中国と国境を接する地域である。ただし、広大なロシア極東地域において、中国と国境を接しているのは、沿海地方、ハバロフスク地方、アムール州、ユダヤ自治州だけである。そのうち、沿海地方とハバロフスク地方は、海洋にも面し、良好な港を持っている。それゆえ、中国だけが国際的な経済交流の相手ではない。一方、アムール州とユダヤ自治州は、中国とのみ国境を接し、海洋への出口をもたない。こうした地理的条件は、当然ながら地域の中国依存度を高めることになる。これまで黒龍江省をはじめとして中国側から見た対露経済交流については、頻繁に本誌でも論じられてきたが、アムール州などロシア極東地域内陸の地方からの考察はあまり試みられてこなかった。100号を上回る本誌の総目次に、アムール州が表題に含まれたことは一度もない。私たちはいつもロシア極東をひとくくりとするなかで、中国経済がロシア極東地域の地方にどのような強烈なインパクトを与えているかを十分には理解していないし、そのインパクトが地方経済の性格をどのように規定するのかを十分に考察してはいない。多くの交流のひとつであるのではなく、唯一の交流相手しかもたない地方の経済のあり様を観察してみよう。

2. 限られた対外交流の窓口

ロシア連邦国境整備局 (Rosgranitsa) によれば、2011年6月1日現在、ロシア連邦には380箇所の国境チェックポイントがある。2007年にロシア連邦国境整備局が設立され、国境チェックポイントの整備と合理化が進んでいる。2008年11月20日施行のロシア政府令「ロシア連邦国境チェックポイントリスト」には421箇所のチェックポイントが掲載されていた。そこから2011年6月現在52箇所のチェックポイントが閉鎖され、新たに10箇所のチェックポイントが開設された¹。国境チェックポイントには、①自動車国境チェックポイント、②鉄道国境チェックポイント、③航空チェックポイント、④海洋国境チェックポイント、

⑤混合国境チェックポイント（河川渡航と自動車渡航の季節別混用）、⑥河川国境チェックポイント、⑦湖沼チェックポイント、⑧歩道国境チェックポイントの8種類があり、それぞれ一地名に二つ以上のチェックポイントがある場合も多い。例えば、中国黒龍江省綏芬河との国境チェックポイントである沿海地方のパグラニーチニイには、自動車国境チェックポイントと鉄道国境チェックポイントの二つがある。

ロシア極東連邦管区には、自動車国境チェックポイントが6箇所、鉄道国境チェックポイントが4箇所、航空国境チェックポイントが10箇所、海洋国境チェックポイントが35箇所、混合国境チェックポイントが10箇所、河川国境チェックポイントが1箇所、合計66箇所ある。中口国境に特化すれば、航空・海洋・河川が隣接国のみを対象としないので勘定から除くと、自動車国境チェックポイント6箇所と混合国境チェックポイント10箇所全てが中国との国境チェックポイント、鉄道国境チェックポイント4箇所のうち3箇所が中国との国境チェックポイントで、残る1箇所は北朝鮮との国境チェックポイントのハサンである。ロシア極東には中国に特化した国境チェックポイントが19箇所あることになる。唯一の河川国境チェックポイントはハバロフスクであり、ハバロフスクの港は混合国境チェックポイントのように対岸が中国というわけではないが、それを中国との国境チェックポイントとして勘定にイれれば、合計19箇所になる。

アムール州には、鉄道国境チェックポイントがない。中国との鉄道国境チェックポイントは、沿海地方パグラニーチニイ・綏芬河間、同じくマハリノ・琿春間、そして、ユダヤ自治州ニジニレニンスコエ・同江間の三箇所である。ニジニレニンスコエは、チェックポイントそのものは両国の合意のもとに設置されたが、鉄道はまだ開通していない。マハリノと吉林省琿春を結ぶ鉄道輸送路は、今年9月にも本格運行する予定である²。将来的に、これら三本の鉄道輸送路が中口国境で機能することになりそうだ。ERINA

¹ ロシア極東地域では、カムチャツカ地方の海洋国境チェックポイントであるコルフが2010年に閉鎖された。また、新規に2012年APECサミットのための建設期間中の限定的海洋国境チェックポイントとして沿海地方のルースキー島、さらにパイプライン建設のためアムール州に混合国境チェックポイントのスコヴォロディノが開設された。スコヴォロディノの用途については、Распоряжение Правительства РФ от 23 июня 2009 г. N 852-р "О временном двустороннем пункте пропуска через государственную границу РФ Сквородино на время строительства подводного перехода нефтепровода" (<http://www.garant.ru/products/ipo/prime/doc/685771/#685771>) を参照。

² 日本経済新聞2011年8月5日付。

が運営してきた「北東アジア経済会議」の運輸・物流分科会において提示されている「北東アジア輸送回廊ビジョン」には9本の回廊があるが、そのうち中口国境を跨ぐ回廊は、綏芬河輸送回廊(グロデコヴォー-綏芬河、ザバイカリスクー満州里)と大連輸送回廊(ブラゴヴェシチェンスク-黒河)であるが、アムール州のブラゴベシチェンスクはその回廊の重要な拠点となっている。ただし、鉄道もなく、河川を渡る回廊(冬期凍結時には自動車輸送)では、複合的輸送ネットワークにふさわしい拠点として機能することは難しい。連邦プログラム「国境2012-2017(Государственная граница на 2012-2017 годы)」では、9億2千万ルーブルをかけてブラゴベシチェンスク郊外のカニ=クルガンの橋梁建設を計画しているが³、それによる自動車物流活性化が中口国境にあって中口物流にインフラ上の制約が多かったアムール州の展望を大きく広げることになるかもしれない。このカニ=クルガン自動車用国境チェックポイントを除けば、アムール州にある国境チェックポイントは全て河川を挟んで中国と対峙し、冬期凍結時に自動車用となる混合国境チェックポイントである。

アムール州で中口間物流を担っている陸上国境税関といえば、ブラゴベシチェンスク=黒河、ジャリダ=漠河、ウシャコヴァ=呼瑪、バヤルコヴォ=遜克ぐらいであろうか。コンスタンチノフカ=孫呉(スヌー)は現在機能していない(共著者レイマーの確認:2011年7月現在)。スコヴォロディノも物流を担うが、パイプライン建設に伴う時限的な国境チェックポイントである。

ロシア税関によれば、ロシア連邦と隣接する国境地域の税関整備・税関検査に関する施策において、パグラニーチニ(綏芬河)、クラスキノ(図們江)、ブラゴベシチェンスク(黒河)、ポリショイ・ウスリスキーの4箇所が税関・物流ターミナルと位置づけられている⁴。ブラゴベシチェンスクという重要な税関・物流ターミナルをもつアムール州は、それゆえ、ロシア極東地域のアジア太平洋地域への出口をもつと考えられるが、その出口は中国黒龍江省以外のアジア太平洋地域には遠く、良好な港湾を太平洋側にもつ沿海地方やハバロフスク地方に比べ、中口国境貿易の位置づけは格段に高く、それはアムール州の市民生活にも大きな影響を与えている。

こうした中国との物流の窓口の維持や整備がアムール州経済および市民生活にとって極めて重要な意義をもつことは、裏返せば、アムール州が他のロシア極東地域同様にア

ジア・太平洋地域との経済交流の拡大に期待しながらも、地理的制約のなかで中国との経済交流にしか活路を見いだせず、極端な中国依存に傾斜していることを示唆している。次節からは、貿易、投資、労働力などの視点から、アムール州の中国依存の実相を観察し、強まる中国依存の脆弱性について検討したい。

3. 貿易における中国依存

ロシア極東地域におけるアムール州の対外貿易の存在感は小さい。そもそもロシア連邦の貿易総額におけるロシア極東地域貿易総額のシェアは3.6%(2009年)と少ないが、ロシア極東地域内ではサハリン州だけでロシア極東地域の貿易総額の約半分、沿海地方、サハ共和国、ハバロフスク地方を加えると9割強をしめることになり、中国との交易が盛んといえども、アムール州やユダヤ自治州の存在感は皆無に等しい(表1)。中口国境に接する沿海地方、ハバロフスク地方、アムール州、ユダヤ自治州の4つの連邦主体だけを取り上げても、9割以上を沿海地方とハバロフスク地方の貿易が占め、アムール州はわずかに6%を占めるに過ぎない。もちろん、沿海地方もハバロフスク地方も人口規模がアムール州よりも遥かに大きく、こうしたロシア極東地域南部4連邦主体の比較は、アムール州の貿易活動が活発でないことを言い表すものではない。ただ、どのロシア極東連邦管区の連邦構成主体も、経済危機による2009年の落ち込みを別とすれば、中国との貿易額を近年堅調に伸ばしてきているなか、鉄道輸送を持たず、冬期河川凍結時にしか自動車輸送が行えないアムール州の対中貿易は、

表1 2009年ロシア極東地域貿易総額連邦主体別シェア

サハリン州	50.5%
沿海地方	23.6%
サハ共和国	9.2%
ハバロフスク地方	8.9%
カムチャツカ地方	3.6%
アムール州	2.3%
マガダン州	1.0%
チュコト自治管区	0.8%
ユダヤ自治州	0.2%
ロシア極東貿易総額(百万ドル)	16,932
ロシア連邦貿易総額(百万ドル)	469,208

(出所) Росстат, Регионы России 2010, с. 988-990より筆者作成。

³ РИА Новости 極東連邦管区版2011年2月9日付記事: <http://dv.rian.ru/economy/20110209/81972496.html> (2011年6月20日アクセス)を参照。

⁴ ロシア税関: http://dvtu.customs.ru/ru/dvtu_consept_TK/detail.php?id695=7723&i695=1 (2011年6月15日アクセス)を参照。

表2 ロシア極東地域対中貿易総額

	2005	2006	2007	2008	2009	2009/2005 (%)
ロシア連邦 (10億ドル)	20.3	28.6	40.3	52.9	39.5	194.58
ロシア極東 (百万ドル)	3,386.6	4,277.8	4,495.6	5,070.1	4,424.3	130.64
うち、中口国境4地方	3,189.7	4,072.2	4,210.9	4,668.6	3,338.2	104.65
沿海地方	1,424.9	1,742.5	1,920.0	2,722.6	2,229.5	156.46
ハバロフスク地方	1,527.1	2,069.5	1,888.0	1,363.7	759.5	49.73
アムール州	222.0	232.5	370.3	534.7	320.1	144.19
ユダヤ自治州	15.7	27.7	32.6	47.6	29.1	185.35
その他極東地域：						
サハ共和国	29.6	20.6	15.3	30.9	26.8	90.5
カムチャツカ地方	42.4	71.5	70.1	44.5	204.9	483.3
マガダン州	11.3	5.8	8.6	14.8	9.5	84.07
サハリン州	113.6	107.7	184.1	311.3	844.9	743.8
チュクチ自治管区	-	-	6.6	-	-	-

(注) アムール州で発行された統計集を利用しているため、連邦統計局で示されている表1の貿易額とは誤差があるが、そのままにしてある。

(出所) Амуроблкомстат, 2010, О приграничном сотрудничестве Амурской области с Китаем, с. 12.

規模的に限界がある(表2)。

アムール州やユダヤ自治州には、国際貿易の窓口として、中国にしか出口がない。中国との隣接性と海洋への距離の遠さは、中国への貿易依存度を極端に引き上げている。天然資源をもつロシア極東地域北部の連邦構成主体は、中国に対する貿易依存度は低い。一方、中国と国境を接する連邦構成主体は、軒並み中国との貿易に対する依存度が高い。そのなかでも、海洋港をもつ沿海地方とハバロフスク地方にくらべ、中国との陸上国境しかもたないアムール州とユダヤ自治州の中国との貿易への依存度は際だっている(表3)。

アムール州の輸入における中国への依存は、輸出に比べ極端である(表4)。近年の傾向を見ても、輸入については中国一辺倒となっている。これは、後に述べるように輸出および輸入の対象となっている貿易品目に由来する性格であろう。

アムール州が中口貿易に活路を見いだす理由は、1990年代の急速な市場経済化のなかで、輸送費の高騰によりロシア各地域および旧ソ連諸国との間に旧ソ連時代に存在した分業の環が壊れ、地域の隣接性がそれを克服する唯一の要素であったことに他ならない。サハリン州やサハ共和国のような木材を除く天然資源を持たないロシア極東地域南部4連邦主体は、農林漁業関連一次産品を主要輸出品とする後進地域型経済である。北東アジアにおけるロシア産木材の最大の輸出先は、2000年までは日本であった。2001年以降、中国が日本にとってかわる立場となった。2002年から

表3 2009年ロシア極東地域連邦主体の中国への貿易依存度

南 部	沿海地方	55.8%
	ハバロフスク地方	50.2%
	アムール州	83.8%
	ユダヤ自治州	98.0%
北 部	サハ共和国	1.7%
	カムチャツカ地方	33.7%
	マガダン州	5.7%
	サハリン州	9.9%

(注) アムール州で発行された統計集に示された貿易額と連邦統計局で示されている貿易額とは誤差があるため、正確な依存度を示しているとは言えないが、そのまま利用して計算している。

(出所) Амуроблкомстат, 2010, О приграничном сотрудничестве Амурской области с Китаем, с. 12., Росстат, Регионы России 2010, с. 988-990より筆者作成。

表4 アムール州の対外貿易に占める対中国貿易の比率 (%)

年	輸出	輸入
2005	86.0	75.5
2006	64.1	88.0
2007	51.4	93.2
2008	52.1	93.7
2009	73.0	90.2

(出所) Амуроблкомстат, 2010, О приграничном сотрудничестве Амурской области с Китаем, с. 18.

は、ロシア産丸太のロシア最大の輸出先であったフィンランドをも中国は凌駕し、突き放していった。封(2009)は、

その背景として、中国の高度成長に伴う木材需要の高まり（特に2001年から建設が始まった上海万博に伴う建設用木材需要と西部大開発）、1998年頃から始まる中国国内特定地域での森林伐採の禁止や制限の開始、1999年からの中国政府による丸太と製材の輸入関税ゼロ化などの優遇措置、などを挙げている。2007年にロシアの丸太輸出関税が20%に、2008年に25%に引き上げられ、我が国の北洋材関連業者の廃業などが大きな関心と呼んだ⁵。2009年に中国のロシア産丸太輸入は大きく落ち込む。とはいえ、丸太・木材の最大の輸出先が北東アジアにおいて中国、日本、韓国の三カ国であり、海洋港まで輸送コストがかかるアムール州にとって、最大の丸太需要が隣にあるという地理的要因は、当然アムール州の丸太・木材などの輸出を中国に特化させる要因となる。

また、アムール州は、日用製品や食料品を中国に依存する。輸入においても、繊維・繊維加工品・靴だけで、2009年の中国からの総輸入額の4割強を占め、食料品と合わせると5割を大きく上回る（表5）。アムール州の生活必需品で中国に依存する製品は多い。衣料、革製品、繊維、タイヤ、紙、段ボール、化学製品、特殊繊維、レース、釣り具、家電、工具、医療機器、メガネから魚、ジャガイモ、トマト、キャベツ、にんじん、果物、ナッツ類、薬用植物に至るまで、質は高くなくとも、価格の安い中国製品がア

ムール州消費市場に浸透している。中国製品は、アムール州住民の生活には欠かせない。

だからこそ、アムール州にとって、中国との陸上国境は重要なのである。ブラゴベシチェンスクやパヤルコヴァの中国からの生鮮食品の物流がなくなれば、アムール州市民はウスリースクやザバイカリスクを経由して中国の生鮮食料品を持ってこなければならない。生鮮食品価格は、ハバロフスクや沿海地方などよりも高騰するし、鮮度も落ちるようになる。アムール州の市民にとって、州内の中口国境を越えた物流は、国際貿易であると同時に、市民生活に根ざした物流となっており、その動向は市民生活にも大きな影響を与える。国境チェックポイントが合理化され、削減される中、アムール州と中国との間の国境チェックポイントが削減対象とならなかったことにアムール州政府および市民の安堵感は大きい。

アムール州からの輸出は、丸太・木材と鉄・非鉄金属が主要産物である（表6）。丸太輸出がピークを迎えた2008年には、丸太・木材・パルプ・木炭だけで輸出額の9割強を占めるほどであった。丸太は州面積の64%を森林に覆われているアムール州にとって中国への伝統的輸出産品である。挽き材の輸出も伸びているが、中国は丸太を好む。

アムール州の丸太・木材輸出の増加には制約もある。保残木伐採、森林火災、環境汚染などによる森林資源の質的

表5 アムール州主要商品群別対中輸入額の変化（上段単位：千ドル）

年	2005	2006	2007	2008	2009
輸入総額	86,724 100%	131,285 100%	261,327 100%	391,292 100%	194,819 100%
食料品および食料品加工原料	21,825 25.17%	24,525 18.68%	29,781 11.40%	26,807 6.85%	26,917 13.81%
燃料・エネルギー	4 0.00%	21 0.02%	95 0.04%	144 0.04%	1,335 0.67%
石油化学製品	2,029 2.34%	3,822 2.91%	4,873 1.86%	11,215 2.87%	7,977 4.09%
丸太、木材、パルプ、木炭	579 0.67%	787 0.60%	1,654 0.63%	1,625 0.42%	2,875 1.48%
金属・金属加工品	3,906 4.50%	8,829 6.73%	22,862 8.75%	39,437 10.08%	20,988 10.77%
機械	15,027 17.33%	27,319 20.81%	132,418 50.67%	200,542 52.25%	37,989 19.50%
繊維、繊維加工品、靴	31,440 36.25%	52,359 39.88%	52,591 20.12%	91,700 23.44%	80,311 41.22%
その他	11,914 13.74%	13,623 10.38%	17,053 6.53%	19,822 5.07%	16,427 8.43%

（出所）Амуроблкомстат, 2010, Внешнеэкономическая деятельность Амурской области за 2000-2009 годы: сборник, с. 32, および Амуроблкомстат, 2010, О приграничном сотрудничестве Амурской области с Китаем, с. 23-24より作成。

⁵ 富山県を例とした北洋材依存とその影響については、堀江（2011）を参照されたい。

劣化が進んでいる。そのため、アムール州で伐採される丸太の大半は、海外において競争力を持たないとされている。また、地域の大手林産業コンプレックスの設備や技術は時代遅れとなっているし、加工費や輸送費の上昇により、こうしたコンプレックスの財務状態は厳しい。2007年2月5日にロシア政府が丸太輸出関税を段階的に引き上げることを発表して以来、当初計画されていた80%という高関税は実施されないまま現在に至り、25%の丸太輸出高関税が維持されているが、陸上国境で隣接する中国東北部のロシア産木材加工業にアムール州の丸太輸出が依存している状況は、変わっていない。

燃料・エネルギーが2009年に大きな存在感を示しているが、これは石油やガスではなく、電力輸出によるものである。この燃料・エネルギーの輸出額の98.8%が電力であり、残りの1.2%が鉄鉱石・石炭である。東部エネルギー会社(ОАО Восточная энергетическая компания)がアムール州から黒龍江省への電力の国境貿易を行っている。近い将来、アムール州で発電された7億3,800キロワット時の電力が中国に向けて輸出される予定である。電力輸出ではブラゴヴェシチェンスク、そしてシヴァキに電力輸出用の税関がある。ブレヤ・ダムやゼヤ・ダムをもつアムール州は、ロシア極東地域において最大の発電能力をもち、2005年以降豊富な余剰電力をもっている。ブレヤ川やゼヤ川にはさらに発電所の建設が計画されており、これまでア

ムール州は、ロシアの比較優位産業たる資源産業においてなら強みを見せてこなかったが、電力輸出は今後州経済を潤す安定的で戦略的な輸出品となる⁶。

森林資源と電力の輸出以外で目立つのは、金属・金属加工品の輸出であるが、鉄製品の輸出が伸びている。ただ、同時に鉄くず・スクラップが中心である。アムール州ではダーチャが荒らされ、ポンプや槌などの金属が盗まれるなど、鉄くず泥棒が問題となっているほどである⁷。第二次世界大戦の記念碑なども、中国バイヤーに売るために供されたということもあるほどである(Davis, 2003, p.90)。

アムール州と中国東北部との交易は、アムール州の原料輸出と中国東北部での加工という関係を如実に表す結果となっている。アムール州は、自らの力では自らの資源を加工できず、また、食料品・衣料・生活必需品を中国からの輸入品に依存する。2009年のブラゴベシチェンスク税関を通った輸出品総重量は、82万2,600トンで、総輸入重量は14万7,900トンであった。一方で、アムール州の対中貿易は、近年大幅な入超である(表7)。重量のかかる資源を輸出し、加工し軽くなった製品を輸入する構図を直感的に示す数値である。中国の加工力に強く依存し、他に出口が見いだせないのがアムール州であるといえる。

4. アムール州で躍動する中国企業

これほどまでにアムール州の中口国境を介した経済関係

表6 アムール州主要商品群別対中輸出額の変化(上段単位:千ドル)

	2005	2006	2007	2008	2009
輸出総額	135,271 100%	101,229 100%	108,931 100%	143,430 100%	125,291 100%
食料品および食料品加工原料	150 0.11%	25 0.02%	11 0.01%	28 0.02%	41 0.03%
燃料・エネルギー	141 0.10%	-	-	-	29,433 23.49%
石油化学製品	57 0.04%	100 0.10%	48 0.04%	180 0.13%	32 0.03%
丸太、木材、パルプ、木炭	69,784 51.59%	77,000 76.07%	98,214 90.16%	132,892 92.65%	83,761 66.85%
金属・金属加工品	59,445 43.95%	16,045 15.85%	5,065 4.65%	842 0.59%	8,542 6.85%
機械	5,288 3.91%	7,325 7.24%	5,231 4.80%	9,044 6.31%	3,412 2.72%
その他	406 0.30%	734 0.73%	362 0.33%	444 0.31%	70 0.06%

(出所) Амуроблкомстат, 2010, Внешнеэкономическая деятельность Амурской области за 2000-2009 годы: сборник, с. 31, および Амуроблкомстат, 2010, О приграничном сотрудничестве Амурской области с Китаем, с. 20より作成。

⁶ 中国側から見た中口電力協力については、姜振軍(2010)を参照されたい。

⁷ Российская газета-Неделя Приамурье, № 4623 от 27 марта 2008 г.: <http://www.rg.ru/2008/03/27/reg-priamurje/metall.html> (2011年6月26日アクセス)

表7 アムール州における対外貿易額の変化
(単位：百万ドル)

	2005	2006	2007	2008	2009
対外貿易総額	272.3	307.1	492.6	692.8	387.6
前年比	163.4	112.8	160.4	140.6	55.9
対中貿易総額	222.0	232.5	370.3	534.7	320.1
前年比	191.2	104.7	159.3	144.4	59.9
輸出	157.4	158.0	212.1	275.2	171.6
前年比	152.4	100.4	134.2	129.8	62.4
対中輸出	135.3	101.2	108.9	143.4	125.3
前年比	187.9	74.8	107.6	131.7	87.4
輸入	114.9	149.1	280.5	417.6	216.0
前年比	181.5	129.8	188.1	148.9	51.7
対中輸入	86.7	131.3	261.4	391.3	194.8
前年比	196.6	151.4	199.1	149.7	49.8
貿易バランス	42.5	8.9	-68.4	-142.4	-44.4
対中貿易バランス	48.6	-30.1	-152.5	-247.9	-69.5
輸出入比、%	137.0	106.0	75.6	65.9	79.4
対中輸出入比、%	156.1	77.1	41.7	36.6	64.3

(出所) Амуроблкомстат, 2010, О приграничном сотрудничестве Амурской области с Китаем, с. 17.

が強いならば、投資も中国一辺倒かと思いきや、投資額からすれば、中国は全く目立たない。目立つのは、小規模な投資活動と小規模な中国企業活動である。

国別投資をみても(表8)、アムール州が中国との経済連携にしか発展の道を見いだせない状況のなかで、中国からの投資の位置づけは低い。英国の投資が最も多いが、これはロシア極東最大の企業「ポクロフスキー・ルドニク」社と採掘業「オリガ」社への投資など、アムール州北部の金の採掘に関連するものと考えられる。キプロスからの投資は、「ガリンスキー・鉱山冶金コンビナート」社、「オルロフスコ・ソハティンスキー・ルドニク」社、「クン＝マニエ」社、「ルドベルスペクティヴァ」社、「NPGFレギス」社、「ガリンスカヤ・インフラストラクツウーラ」社(鉄道インフラ関連)などへの投資である。関連して、2009年8月

表8 国別対アムール州外国投資額変化(単位：百万ドル)

	2005年	2007年	2008年	2009年
総投資額	95.3	130.6	137.7	212.1
国別内訳：				
中国	1.5	2.9	4.7	7.3
英国	68.5	28.2	48.9	140.3
カナダ	25.2	73.0	37.8	2.6
キプロス	-	26.5	46.3	61.9
北朝鮮	0.1	-	-	-

(出所) Амуроблкомстат, 2010, Внешнеэкономическая деятельность Амурской области за 2000-2009 годы: сборник, с. 48

決定の「アムール川沿岸の鉱山・冶金クラスター形成」の地域発展省投資計画にそって、860億ルーブルの投資が見込まれており、このプロジェクトの核になるのはガリンスキー・鉱山冶金コンビナートである。カナダからは「ベレジトヴィ・鉱山」社など金採掘に係わる投資である。上記のように海外からの企業活動への投資は、ほとんど鉱山関連である。鉱山業のように大規模な投資を必要とする産業があるゆえに、年々、投資額は大きく伸びているものの、こうした貴金属採掘などに係わる欧米企業に比べ、中国の存在感は小さい(表9)。

もちろん、ロシア極東地域の経済発展に必要なインフラ整備に中国企業が係わることも多い。2009年、中国からの投資は、林工業企業「レストランス」、建設・解体企業「インセルヴィス」、煉瓦・タイル製造企業「シグナル」などに、直接投資や融資の形で行われ、中国投資家に利益をもたらしている。アムール州は、スコヴォロディノからジャリンドと漠河との間の国境を通る中ロパイプラインの建設しており、それに必要な投資をアムール州に引きつけた。

また、ブレヤ・ダム発電所から中ロ国境を越えて中国に至るまでの全長153キロメートルの電力輸出用送電設備が2012年には敷設されることになっている。現在は余剰電力の輸出にとどまっているが、将来的には輸出用の発電所が中国と協力して建設されるという⁸。それでも、中国の投資は、国境地域沿いのロシア住民の生活に直接関わる分野

表9 近年の中国の対アムール州投資額の変化

	2005年		2007年		2008年		2009年	
	百万ドル	前年比(%)	百万ドル	前年比(%)	百万ドル	前年比(%)	百万ドル	前年比(%)
外国投資総額	95.3	221.1	130.6	116.6	137.7	105.5	212.1	154.0
中国投資	1.5	230.3	2.9	138.9	4.7	163.0	7.3	153.8
比率	1.6%	-	2.2%	-	3.4%	-	3.4%	-

(出所) Амуроблкомстат, 2010, О приграничном сотрудничестве Амурской области с Китаем, с. 46-47.

⁸ 2010年11月23日付 РИА Новости参照 (<http://ria.ru/economy/20101123/299731124.html>, 2011年7月11日アクセス)。

への投資が農林産業への投資に限定されているため、総額としての存在感は小さい。

ただ、投資対象企業数で見ると、圧倒的に中国からの投資が目立つ。表10に見られるように、アムール州の外国資本企業のほとんどは中国企業である。2009年にアムール州で営業している中国企業数は83社であるが、その内訳として、農業・森林伐採で11企業、建設で17企業、卸売・小売で26企業、レストラン経営で10企業、不動産で2企業、サービス業で1企業であることまでがわかっている。当初は合弁企業を中心だった中国企業のアムール州進出も、近年では100%出資の中国企業が増えている。資本金出資が増えている傾向はそれを裏付けている（表11）。2009年の州の企業総取引高の約5%、2008年で約8%は、中国企業もしくは中国資本参加の企業によるもので、建設企業「SKヴォストロクストロイインヴェスト」、林業企業「シン=チュン」、商業・建設企業「KSK ファーフ」、土木企業「スーパーストロイ」、建設・レストラン企業「ファ=シン」といった企業がリーディング・カンパニーである。ブラゴベシチェンスクを拠点にして、市民生活に深く関わる部分での中国人の投資活動が目立つ。

ただ、投資の中身を見てみると、生産活動や事業展開にどれほど貢献しているのか、よくわからない。固定資本投資といっても建物・施設への投資ではなく、家屋への投資が中心で、他に目立つのはローン供与である。機械設備への投資は微々たるものにしか過ぎない（表12）。

2009年に外国人への労働許可割当がアムール州でも減ったが、外国資本参加企業で働く従業員数に影響はなく、29.5%増の13,200人となり、中国資本参加の企業も16.2%

増の2,700人となった。外国資本参加企業の労働者の過半数が建設労働者（中国資本参加企業に限ってみれば36%）、森林伐採で23%の労働者、農業で8%の労働者が働いている。外国投資は、地域の雇用を守り、維持するのに一役買う。

それでもアムール州地域住民にとって、ブラゴベシチェンスクを中心とする中国企業および中国人の活動に脅威を感じさせる状況も生じやすい。小企業でのアムール州市場への参入が、中国にとって最も可能性を秘めた利益の多いルートであり、その参入の原初的な方法が非合法的なものであると考える専門家も少なくない。アムール州側に小規模な企業を設立し、資源貿易に必要な割当やライセンスを取得し、いくつかの契約を結んだ後に会社を閉めるということが、中国企業の活動にはよく見られるという。また、本格的にアムール州で企業活動をやろうと考えている中国企業は少ないと言われている。さらに、中ロ合弁企業はロシアの資本逃避に一役買っているとの意見もある。中ロ合弁企業の名の下で中国国内に設立された偽装の企業や工場、そしてロシアレストランなどがあり、そうした事業の収益はアムール州に戻ってこないばかりか、償還する方法さえもないというわけである。また、中国企業は、ロシアにおける競争相手企業を、アムール州の資源取引の諸過程から意図的に放逐しているとの意見もある。当初は、州経済にとって重要な役割を担っている企業家とともに中ロ合弁として始まった事業でも、次第にロシア人企業家は閉め出され、仲介者か名前だけの存在になるか、ただの従業員になることもあるという。これらアネクドータルなお話は、真偽のほどは別として、すべてアムール州で躍動する中国企業進出への不安を表すものである。

表10 アムール州における外国資本による企業数（2000-2009年）

	2000	2005	2006	2007	2008	2009
企業数（社）	34	31	46	55	86	115
うち、中国から投資を受けた企業数	22	24	38	42	65	83

（出所）Амуроблкомстат, 2010, Внешнеэкономическая деятельность Амурской области за 2000-2009 годы: сборник, с. 57.

表11 中国からアムール州への投資形態別投資額の変化（単位：千ドル）

年	2005	2006	2007	2008	2009
投資額	1,530.6	2,089.4	2,902.7	4,731.9	7,277.1
直接投資	1,530.6	926.1	775.9	3,982.8	7,277.1
資本金出資	1,492.1	332.7	131.0	3,529.4	2,087.8
外国共同出資者融資	38.5	546.1	641.2	17.7	4,875.2
その他の直接投資	-	47.3	3.7	435.7	314.1
その他の投資	-	1,163.3	2,126.8	749.1	-
その他信用	-	1,163.3	2,126.8	749.1	-

（出所）Амуроблкомстат, 2010, О приграничном сотрудничестве Амурской области с Китаем, с. 48.

表12 支出項目別にみた中国からの投資の活用（単位：千ドル）

	外国投資			
	2008年	構成比 (%)	2009年	構成比 (%)
投資総額	4,572.6	100.0	7,054.7	100.0
固定資本投資	858.2	18.8	4,759.3	67.5
うち 家屋	749.1	16.4	3,646.5	51.7
建物（家屋を除く）	-	-	1,017.8	14.4
機械・設備・工具・備品	109.1	2.4	95.0	1.4
その他非金融資産への投資	-	-	94.7	1.3
うち 土地・天然資源購入	-	-	94.7	1.3
ローン供与	3,224.3	70.5	1,724.6	24.4
銀行融資やローンへの返済	-	-	42.1	0.6
銀行融資・ローンへの利子返済	-	-	0.5	0.0
原材料・部品等への支払い	478.1	10.5	220.2	3.1
税金、その他義務的支払い	10.6	0.2	54.9	0.8
賃貸料	-	-	2.7	0.0
労務費・委託サービス費	-	-	143.9	2.0
その他	1.4	0.0	11.8	0.3
年度内に利用しなかった資金	159.3	-	222.4	-

（出所）Амуроблкомстат, 2010, О приграничном сотрудничестве Амурской области с Китаем, с. 50.

中国企業のアムール州での活動には、労働力の問題が常に付随し、中国企業が活躍すれば活躍するほどに中国人ビジネスマンや労働者のプレゼンスがアムール州において高まる。例えば、農業を例に挙げてみよう。ロシア農業は、1990年代の農業生産の停滞と低賃金により、休耕地が増え、従業員数を大きく減らしてきた部門である。そもそも収穫時期には、旧ソ連時代であっても学徒動員しなければ収穫もままならなかった農業において、そうした動員も行えない今となっては、季節労働者の手配は死活問題である。休耕地を活用する中口農業合弁事業や請負生産にビジネスチャンスを見だし、アムール州での農業生産に乗り出す中国企業が増えている。アムール州にとっては、中国で生産された農産物を輸入するよりも、中国企業によってあれアムール州で生産される消費される方が州経済と市民にとっては歓迎されることであろう。このあたりでは、両地域の思惑は合致する。

こうした農業分野における国境を挟んだ両国の協力に中国企業は活気づいている。黒龍江日報によれば、牡丹江市企業がロシア極東地域で経営している農耕地約15万ヘクタールがロシア極東地域の農産物消費量の3分の1を供給しており、牡丹江市政府も積極的に海外農業開発プロジェクトとして企業支援しているとのことである。黒龍江省黒河市では、2009年にロシアで農業用土地5万3千ヘクター

ルを開発し、黒河市の27企業が参加して大豆、小麦、トウモロコシなどの生産を行っているようだ（堀江、2010）。従来、ソ連崩壊後のロシア極東地域は中国東北部の安価な農産物の輸入を行い、市場には中国産農産物が浸透していた。いまでは、中国側国境地域企業は、本格的にロシア側での農業経営に乗り出し、それがロシア極東地域の農産物市場ですでに確固たる地位を築きあげていることを物語っている。

胡錦濤主席とメドヴェージェフ大統領との間で、2009年9月23日に調印された「ロシア連邦極東地域および東シベリア地域と中華人民共和国東北部地域の地域間協力プログラム（2009-2018年）」は、幅広い両地域の協力が唱われているが、注目すべきは中国側の積極的な農業開発支援である。このプログラムでは、アムール州に農業技術移転センターを設立すること、労働活動面での中口協力の強化として、請負・下請などにおける農業、畜産、建設などのプロジェクトを通じて両国の国民が両国で短期に労働活動を行うことについて協力を発展させるとされている。さらに、個別プロジェクトとしては、アムール州と沿海地方とユダヤ自治州において「農産物生産における協力プロジェクト」がとりあげられており、また、ユダヤ自治州では、畜産に関わるものとして養豚複合体企業の設立、農産物加工に関わるものとして大豆加工企業の設立などがプロジェクトとし

て挙がっている。

こうした両地域の農業分野での協力の進展があるものの、同時に労働力確保においても中国に依存しなければならないロシア側の事情が、事態を複雑にしている。

黒龍江省のマスメディアでは、シベリアや極東地域の各地方の農業部門の労働に関して賃金など様々な出稼ぎ情報が発行されている。ロシアの沿海地方と黒龍江省政府は、中国人農業労働者募集および職業訓練のセンターをロシア側に設立することについて合意文章を2007年に交わしている。しかし、ロシアの地元民は、低賃金と勤勉さを併せ持つ中国人労働者が労働市場で競争相手になることや、賃借した土地に中国人が定住することを恐れているとの見方もある（Ларин, 2009, p.218）。とはいえ、ロシア極東地域の農村に必要な労働力があるわけでもなく、特に収穫時期などにおいては人手不足そのものが深刻な問題になることから、中国人の農業労働者なしにはロシア極東の農業は維持できないというのが現実なのである。1990年代に失業率の高かった時期でさえ、中国人出稼ぎ労働者が減少するなか、沿海地方やアムール川流域の農村の集団農場や農民経営では地元住民を雇用せずに、休耕地を使って中国人に請負生産させていた（Загребнов, 2008）。

中国からの農業投資が促進されたとしても、それを担う労働力が不足する状態では、ますます中国人出稼ぎ労働者をアムール州に呼び込まざるをえない状況が容易にできあがってしまう。中国からの投資が、アムール州の雇用と強く結びつかないまま、資金も技術も労働力も中国に依存するかたちでアムール州における農業開発が進めば、中国経済のロシア極東地域への拡張への脅威論を刺激する可能性を秘める。

中国経済への依存度を増すアムール州は、アジア太平洋諸国との連携といった地域経済発展の方向性に関する大風呂敷の議論ではなく、中国からの貿易や投資をいかにアムール州の天然資源、技術、労働力といった資源賦存と結びつけるか、そしてその中口経済連携の賑わいに関心を示す近隣諸国にどのような参加のあり方が可能なかを考えていくことこそ重要である。一方的な州経済の中国依存は確かに州経済の脆弱性をあらわすものである。しかし、同時にチャンスでもあり、中口経済連携がもたらす不安に目を背けず、逆にそれを発展の梃子とする地域構築力が求められている。

5. おわりに

ロシア極東地域も中国東北部も、それぞれの国で周辺・辺境に位置する地域である。中国東北部は、周辺地域とし

て製造費は安い市場へのアクセスが悪い地域であったのが、国境地域である利点を生かし、国境が開放されると、一挙に市場へのアクセスの悪さを克服することになった。中国沿海地域の資本が中口国境地域に流れ込み、産業集積を開始するようになった。一方、同じ条件だったはずのロシア極東地域は、国境が開放されたにもかかわらず、中国と比較して製造費は高く、労働力供給に制約があり、旧ソ連時代に中心部への資源供給が、冷戦崩壊後の国境開放により、方向を変えて中国に向かうようになっただけで、産業集積も生じないまま現在に至っている。周辺地域の国境の開放は、中心部にだけ見られる伝統的な産業集積を分散化させ、周辺において特定産業の産業集積が起こる可能性をもつが、ロシア極東地域はそのチャンスを逸してきた。

ロシア政府は、周辺地域の製造業育成を念頭に、丸太輸出関税や中古自動車輸入関税の引き上げを行い、確かにその政策はロシア極東地域に自動車工場をもたらしたり、木材加工業への中国資本の進出をもたらしたりしている。ただ、中国にしか市場アクセスがなく、極度に中国に経済依存したアムール州では、アムール州で加工された製品がいかに中国市場を獲得できるかにかかっている。対中経済関係ではアムール州は加工業で比較優位をもち、関税障壁などによる政策的誘導がなければ、わざわざアムール州で中国市場向け製品が加工されることはない。

アムール州経済の中国への過度な依存を論じてきたが、アムール州の今後の課題は、ロシアにおいて繰り返し論じられるようなアジア太平洋地域との連携ではない、と私たちは考える。アムール州は、中国との強い結びつきを活用してこそ、未来が開かれる。脅威の対象となりがちの中国経済との積極的なつきあい、両岸地域が互恵的な経済交流なしには持続的な辺境地域の発展はありえないことを理解し、両岸地域で中国人とロシア人が共に働き、共に暮らす協調関係を、どのように形成していけるか、中国東北部とアムール州の産学官が工夫していかなければならない。中国市場やロシア極東地域市場を獲得しようとする中口以外の国々の投資は、国境を挟んだ両地方の国際的連携がもたらす波及効果であって、地方間国際連携の発展と安定がなければ辺境への国際的関心は高まらない。

黒龍江省や吉林省のロシア国境地域の活況は、中国東北部とロシア極東地域との間の国境を通じた経済交流が質的にも量的にも充実し、両者の関係なしには両地域経済が成り立たないほどの強い交流になっていることを印象づけている。黒龍江省も吉林省も、海への出口を直接持たない地域である。それゆえに国境を接するロシア極東との交流に活路を見いだして発展してきた中国側であるが、同じく海

への出口を持たず、中国との関わりでなければ将来像が描けないはずのアムール州は、中ロ国境経済協力の恩恵を地域の資本・技術・労働と結びつけてこそ展望が見いだせることを改めて真剣に考える必要がある。

参考文献

1. 姜振軍 (2010) 「中ロ東部国境地域の相互協力と共同发展に関する研究」『ERINA REPORT』vol.94、環日本海経済研究所、19～24ページ。
2. 封安全 (2009) 「ロシアの木材輸出の新展開—対中国貿易を中心に」『スラヴ研究』第56号、北海道大学スラブ研究センター、179～196ページ。
3. 堀江典生 (2010) 「ロシア極東地域の農業発展を担う中国人労働者：中ロ国境地域間農業協力の内実」『エージェック・レポート』第51号、北陸環日本海経済交流促進協議会、46～54ページ。
4. 堀江典生 (2011) 「ロシア極東」、吉井昌彦・溝端佐登史編著『現代ロシア経済論』ミネルヴァ書房、167～189ページ。

5. Davis, Sue, 2003, *The Russian Far East: The Last Frontier?*, London: Routledge.
6. Загребнов, Е., 2008, Экономическая организация китайской миграции на российский Дальний Восток после распада СССР, Демоскоп Weekly No.315-316 (<http://demoscope.ru/weekly/2008/0315/analit05.php>) .
7. Ларин, А. Г., 2009, Китайские мигранты в России, Восточная книга.

* 本稿は、富山大学極東地域研究センターと極東国立農業大学（ブラゴベシチェンスク）との共同研究の成果の一部である。本研究に際して、筆者は、科学研究費補助金基盤研究（B）「ロシア極東再開発の潜在力と限界：中ロ経済相互依存関係から見る諸課題」（課題番号：21402019）、富山大学＝株式会社鈴工共同研究、科学研究費補助金基盤研究（A）「東北アジアにおける辺境地域社会再編と共生様態に関する歴史的・現代的な研究」（課題番号：23251003）からの資金的支援を得た。

付表：ロシア極東地域国境チェックポイント一覧

I. 自動車国境チェックポイント			
1	カニクルガン	アムール州	二国間一時的貨物・旅客用（簡易）
2	クラスキノ	沿海地方	二国間常設貨物・旅客用
3	マルコヴォ	沿海地方	二国間一時的貨物・旅客用（簡易）
4	パグラニーチニ	沿海地方	二国間一時的貨物・旅客用（簡易）
5	ボルタフカ	沿海地方	二国間常設貨物・旅客用
6	トゥーリー・ログ	沿海地方	二国間常設貨物・旅客用
II. 鉄道国境チェックポイント			
1	マハリノ	沿海地方	国際常設貨物・旅客用
2	ニジニレニンスコエ	ユダヤ自治管区	国際常設貨物・旅客用
3	パグラニーチニ	沿海地方	国際常設貨物・旅客用
4	ハサン	沿海地方	国際常設貨物・旅客用
III. 航空チェックポイント			
1	アナディリ（ウーゴリニ）	チュクチ自治管区	国際常設貨物・旅客用
2	ブラゴベシチェンスク	アムール州	国際常設貨物・旅客用
3	ウラジオストク（ケネヴィチ）	沿海地方	国際常設貨物・旅客用
4	マガダン（ソコル）	マガダン州	国際常設貨物・旅客用
5	オハ	サハリン州	国際一時的・季節限定貨物・旅客用
6	ベトロバプロフスク・カムチャツキー（エリゾヴォ）	沿海地方	国際常設貨物・旅客用
7	プロヴィデニヤ湾	チュクチ自治管区	国際不定期貨物・旅客用
8	ハバロフスク（新）	ハバロフスク地方	国際常設貨物・旅客用
9	ユジノサハリンスク（ホムトヴォ）	サハリン州	国際常設貨物・旅客用
10	ヤクーツク	サハ共和国	国際常設貨物・旅客用
IV. 海洋国境チェックポイント			
1	アレクサンドロフスク・サハリンスキー	サハリン州	国際常設貨物用
2	アナディリ	チュクチ自治管区	国際季節限定貨物・旅客用
3	ペーリンゴフスキー	チュクチ自治管区	国際季節限定貨物・旅客用
4	ワニノ	ハバロフスク地方	国際常設貨物用
5	ウラジオストク	沿海地方	国際常設貨物・旅客用
6	ボストーチニ	沿海地方	国際常設貨物用
7	デ・カストリ	ハバロフスク地方	国際常設貨物用
8	ザルピノ	沿海地方	国際常設貨物・旅客用
9	コルサコフ	サハリン州	国際常設貨物・旅客用
10	クラボザヴォツキー	サハリン州	国際常設貨物・旅客用
11	クリリスク（紗那村）	サハリン州	国際常設貨物・旅客用
12	マガダン	マガダン州	国際常設貨物・旅客用
13	モスカリヴォ	サハリン州	国際季節限定貨物用
14	ミス・ラザレヴァ	ハバロフスク地方	国際季節限定貨物用
15	ナホトカ	沿海地方	国際常設貨物・旅客用
16	ネベリスク	サハリン州	国際常設貨物用
17	ニコラエフスク・ナ・アムーレ	ハバロフスク地方	国際季節限定貨物・旅客用
18	オクチャプリスキー	沿海地方	国際常設貨物用
19	オリガ	沿海地方	国際常設貨物用
20	オホーツク	ハバロフスク地方	国際常設貨物用
21	ベトロバプロフスク・カムチャツキー	カムチャツカ地方	国際常設貨物・旅客用
22	プラストウン	沿海地方	国際常設貨物用
23	ボロナイスク	サハリン州	国際常設貨物用
24	ボシェット	沿海地方	国際常設貨物・旅客用
25	プリゴロードナエ	サハリン州	国際常設貨物用
26	プロヴィデニヤ	チュクチ自治管区	国際季節限定貨物・旅客用
27	鉱業生産複合体"ヴィチャーージ"	サハリン州	国際季節限定貨物用
28	セベロクリリスク	サハリン州	国際常設貨物・旅客用
29	スラヴィヤンカ	沿海地方	国際常設貨物・旅客用
30	ソヴィエツカヤ・ガヴァニ	ハバロフスク地方	国際常設貨物・旅客用
31	ウグレゴルスク	サハリン州	国際常設貨物用
32	ホルムスク	サハリン州	国際常設貨物・旅客用
33	シャフチョルスク	サハリン州	国際常設貨物用
34	ユジノクリリスク	サハリン州	国際常設貨物・旅客用
35	ルースキー	沿海地方	国際一時的貨物・旅客用（2012年APECサミット建設期間中）
V. 混合国境チェックポイント			
1	アムールゼト	ユダヤ自治州	国際常設貨物・旅客用（河川用、凍結時自動車用）
2	ブラゴベシチェンスク	アムール州	国際常設貨物・旅客用（河川用、凍結時自動車用）
3	ジャリンド	アムール州	国際常設貨物・旅客用（河川用、凍結時自動車用）
4	コンスタンチノフカ	アムール州	国際常設貨物・旅客用（河川用、凍結時自動車用）
5	ニジニレニンスコエ	ユダヤ自治州	国際常設貨物・旅客用（河川用、凍結時自動車用）
6	パシコヴォ	ユダヤ自治州	国際常設貨物・旅客用（河川用、凍結時自動車用）
7	ボクロフカ	ハバロフスク地方	国際常設貨物・旅客用（河川用、凍結時自動車用）
8	パヤルコヴァ	アムール州	国際常設貨物・旅客用（河川用、凍結時自動車用）
9	ウシャコヴァ	アムール州	国際常設貨物・旅客用（河川用、凍結時自動車用）
10	スコヴォロディノ	アムール州	二国間一時的貨物・旅客用（河川用、凍結時自動車用）
VI. 河川国境チェックポイント			
1	ハバロフスク	ハバロフスク地方	国際常設貨物・旅客用

(注) ハバロフスク地方ボクロフカは、饒河（じょうが：ラオヘー）との国境チェックポイント。ザバイカル地方のボクロフカ=洛古河とは別である。また、本リストは、チェックポイントの設置から開設までを含み、設置されているが開設されていないチェックポイントを含む。

(出所) Распоряжение Правительства РФ от 20 ноября 2008 г. N 1724-р. О пунктах пропуска через государственную границу РФ/Перечень пунктов пропуска через государственную границу Российской ФедерацииおよびRossgnranitsaウェブサイト公示情報より作成。

The Sino-Russian Economic Relations Seen in Amur Oblast: Is there a way out from the increasing dependence on China?

HORIE, Norio

Professor, Center for Far Eastern Studies, University of Toyama

REYMER, Valerii

Assistant Professor, Institute of Humanities, Far East State Agricultural University

Summary

This paper takes up Amur Oblast which, adjoining the border with China, only has international exit-points to China; that proximity is increasing the marked dependence on China of Amur Oblast, and this paper portrays the extending of dependence on the Chinese economy as far as civil life, and discusses the future prospects for the economic development of Amur Oblast, for which unease at having a one-sided dependence and Sino-Russian border economic cooperation are expected. In the Russian Far East there are 63 checkpoints in total, yet Amur Oblast does not have routes for economic exchange via rail or maritime ports, and except for the Kani-Kurgan automotive-use border checkpoint, it only has six river checkpoints with China (in actuality four are functional) where they can use automotive vehicles when frozen over. The border trade itself with China, in terms of the degree of dependence on trade with China of Amur Oblast's international trade, is markedly high in comparison with the other federal subjects of the Russian Far East. Exports are restricted to primary products such as logs and timber, and iron, non-ferrous metals and electricity, and imports are composed of a broad range of goods such as everyday household goods and foodstuffs that permeate civil life. There is the potential for the export of electricity to become a future strategic export of Amur Oblast, and although a stabilizing enrichment of the economy of the oblast is hoped for, a relationship is taking hold of the export of Amur Oblast's raw materials and of processing in northeastern China. Amid the dependence of Amur Oblast on Sino-Russian trade increasing, unlike the large-scale investment of Western firms in mines and the like, investment from China in terms of amount is not pronounced. In terms of the number of expanding companies, however, Chinese capital participation is in the majority and the investment amount is small, but active diversification at the SME-level is being carried out in Amur Oblast. That, however, is not tied up with the local capital, technology and labor of Amur Oblast; the capital, technology and labor are all supplied from the Chinese side, and therein lies cause for a deep-rooted resistance toward expansion of companies from China. Rather than the grandiloquent logic of economic links with the Asia-Pacific region, for Amur Oblast, which can only see the way out in Sino-Russian border trade, cooperation is required to act as a lever for regional economic development, actively tying Chinese capital up with the capital, technology and labor of Amur Oblast.

[Translated by ERINA]